

## ライフジャケットの配布を

## 現在検討している

こまつ たかし 議員  
小松 孝年

**問** 避難道の構造について、その地区事情に合った、道幅や手摺りの位置、スロープや階段の組み合わせや配置等についてどう考えているか。

**答** 大塚 地域住民課長

避難道の構造について基準は定めていないが、幅員、勾配に配慮し、安全に避難できる環境整備が必要だと考えている。

現在の避難道は自然環境のものが多いため、現道の1m以上の路面舗装や上り坂を補

助する手摺りの設置等を行い、

車いすなど、災害時の要援護者の方も介助を受けて避難できるような、基本的なスロープでの整備が望ましいと考えている。ただし、地形により勾配がきつくと、スロープでの整備が困難である箇所や、浸水予測時間が早く、早急に高台へ避難する必要がある箇所については、階段による整備を行う必要がある。

また、夜間の避難にも対応するため、ソーラー照明を設置していきたい。

避難道の幅員については対象人口にもよるが、用地等を含め拡張可能であれば、介助者による避難も考慮し、1・5m以上の整備を考えている。

**問** 庁舎移転で影響する地区の避難場所、避難路の計画は

同時に進めていくべきだと思う。安心・安全なまちづくりとは、まずは住民の方々が安心できるような色々な面の配慮が必要ではないか。

また、避難時間の想定が5分となると、地震による家屋の倒壊による影響や、避難場所への距離的な問題で、避難困難な地区は多くあり、今から津波対策の整備をしていても間に合わない可能性が

ある。一人でも多くの住民を助けるためには、すぐできる事の一つとして、ライフジャケット（救命胴衣）の配布を

**答** 松田 総務課長

避難時間が5分の想定から判断すると、浜の宮、新町、万行、早咲の一部については、厳しい状況だ。

前計画の庁舎東の段階では浜の宮地区の避難場所ということもあったが、現在の庁舎移転計画においては、この4地区について、避難道や避難タワーの整備も検討している。

まだ明確なものではできていないが、住民の皆さんと合意形成をしながら、対応をしていく。

また、議会の震災対策特別委員会で住民説明会の開催予定があり、町も一緒に参加したいと思っている。

ライフジャケットの配布も、実際取り組んでいる地域もあ

り、補助対象にもなっているので、その方向も検討している。

**その他の質問**

※黒潮町のイベントの見直しについて

※入札工事の設計チェック機能について



平成24年1月 出初式